

理工学術院「英語の授業と学習法について」のご案内

<理工学術院の英語とは?>

理工系分野では、英語が唯一の世界共通語となっています。理工学術院では英語で書かれた教科書を使う授業もあり、英語による論文作成やプレゼンテーションを避けて通ることはできません。卒業後、大学院に進学するにせよ、就職するにせよ、研究者・技術者として高度な英語運用能力が期待されることになります。そこで、理工学術院では、理工系研究者・技術者として必要な英語を修得することを目的に、次のような科目が準備されています。

● 必修8科目

1年次：Communication Strategies 1 & 2 と Academic Lecture Comprehension 1 & 2 の4科目

2年次：Concept Building and Discussion 1 & 2 と Academic Reading 1 & 2 の4科目

● 選択科目

3・4年次：Technical Writing 1 & 2、Technical Presentation、Special Topics in Functional English（学科によっては、この中のいくつかが必修科目になっています。）

高校まで英語以外の外国語を中心に勉強してきた人でも、上記の必修8科目は必ず履修しなければなりません。また、英語の授業は原則として英語で行われます。英語カリキュラムの詳細は理工学術院英語教育センターのホームページ(<http://www.celese.jp/>)で確認することができます。

入学時にはクラス分けテストを受験し、その結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われます。2年次以降は、TOEIC公開テストを受けることをお勧めします。この受験料の一部は大学が補助します。

<入学前にどのような英語の勉強が必要か?>

- まず、高校の授業で学習した英語をしっかりと身に付けて下さい。教科書を中心に、教科書本文はもちろんのこと、用例をふまえて文法事項・単語・熟語をしっかりと学び、使えるようにして下さい。教科書準拠の音声教材を使うと効果的です。また、英語教育センターホームページには Academic Word List の例文付き単語表があります(<https://celese.jp/courses/resources/awl/>)。適宜活用してください。
- 読解力養成や語彙力増強にはオンライン英字新聞・雑誌、ブログなどを多読することをお勧めします。英字新聞や英語による放送、また英米の大学のホームページなど、利用できる教材がインターネット上に数多くあります。特にMIT(マサチューセッツ工科大学)のOpenCourseWare(<http://ocw.mit.edu/>)では、MITの学部1年生向けの数学、物理、化学、生物などの授業が映像(字幕付き)で見られますので、活用することを強く勧めます。
- リスニングとスピーキングの力を伸ばすためには、NHK語学番組や、市販の音声付き教材、インターネット上の放送やPodcast(たとえば、Voice of Americaの科学ニュース)などを利用しながら英語を聞いたり話したりする練習も有効です。音読やシャドーイング(お手本の音声を聞きながら文字を見ずに発音する練習)は、話すための基礎力作りにたいへん有効です。以上の点を参考に毎日声に出して練習してください。

皆さんのご入学を心よりお待ちしております。